

ご寄付のお願い

次代を担う子どもたちのために、皆さまのご支援をお願いいたします。

イオンワンパーセントクラブでは、子どもたちの教育や国際交流、地域文化の保全などの活動に取り組んでいます。

今後、私たちの活動内容をさらに充実させていくために、皆さまのご理解とご賛同をいただけるようでしたら、ぜひご支援の程よろしくお願い申し上げます。

ご寄付の方法

クレジットカード
決済

WAON POINT
利用

銀行振込

寄付受付画面にお進みいただき、ご寄付の方法をお選びください。

<https://aeon1p.or.jp/1p/about/donation/>



ワンパーセント
公益財団法人 **イオン1%クラブ**

〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1-5-1

TEL:043-212-6023 FAX:043-212-6461

<https://aeon1p.or.jp/1p/>

活動の詳細はホームページへ



公益財団法人
ワンパーセント
イオン1%クラブ
概要書

笑顔あふれる未来をつくる。

「お客さまからいただいた利益を社会のために役立てる」という想いのもと、

環境・社会貢献活動に取り組んでいます。

子どもたちの 健全な育成

環境・社会をテーマに、子どもたちが社会的なルールを学びながら、身近な地域の問題を主体的に捉え、考える力を育てます。また、教育施設が不足する国々の学校建設などを支援します。

諸外国との 友好親善

学生たちに国際的な文化・人材交流の機会を提供し、相互理解を深めることで日本と諸外国との友好親善を深めます。また、アジアの大学生に対する奨学金授与など、グローバル人材の育成を支援します。

地域の 発展への貢献

地域に根ざし、次代に引き継ぐべき伝統行事や文化の継承を支援するとともに、地域社会が抱える諸問題の解決に取り組みます。

災害復興支援

被災した方々が、日常生活を一日でも早く取り戻せるよう、復旧・復興を支援しています。国内外で発生した被災地へ、復旧・復興活動にお役立ていただくため、迅速な緊急支援金の寄付等を行っています。

目次

ご挨拶 03

設立の経緯 04

子どもたちの健全な育成

イオンチアーズクラブ 05

中学生作文コンクール 09

イオンエコワングランプリ 11

学校建設支援 13

イオンユニセフ
セーフウォーターキャンペーン 14

諸外国との友好親善

ティーンエイジアンバサダー 15

アジアユースリーダーズ 17

イオンスカラシップ 19

地域の発展への貢献

ふるさと未来支援 21

イオンすくすくラボ 22

災害復興支援

緊急災害復興支援 23

首里城復興支援 25

イオンワンパーセントクラブのあゆみ 27

理事・監事・評議員一覧 28

2024年度 寄付・協賛企業一覧 29



ご挨拶

当財団の活動に、ご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。イオンワンパーセントクラブは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオングループの基本理念を具体的な行動に移し、社会的責任を果たすことを目的に、1990年に設立され、設立35周年を迎えました。

お客さまにイオングループをご利用いただき生まれた利益の1%相当額をもとに、「子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善」「地域の発展への貢献」「災害復興支援」を主な事業領域として、環境・社会貢献活動に取り組んでいます。乳幼児から大学生まで、それぞれの成長に合わせた育成支援に加え、国を越えて事業展開する寄付企業の皆さまとともに日本とアジア各国の若者との交流を促進するプログラムを提供しています。

「子どもたちの健全な育成」事業のひとつである「イオン チアーズクラブ」は、1996年の活動開始から累計メンバー数が106,345人となりました。全国で420クラブのメンバーが体験学習を通じて無意識のうちに環境問題や社会貢献に興味を持ち、自ら考える力を育む場を提供しています。さらに、イオングループ各社や大学との協業による農業体験プログラムのほか、金融教育や防災体験など、新たな活動の場が広がってきております。

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」に際しまして、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地域の日も早い復興を願い、被災者の方々の生活に必要な物資の調達や、地元企業の再建等にお役立ていただくべく、緊急支援金の寄付を行うとともに、引き続き被災者支援活動を継続しております。

当財団は、これからも笑顔あふれる未来を目指し活動してまいります。皆さまのご支援よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

理事長 森 美樹



設立の経緯

企業による社会貢献活動が、日本において未だ本格化していなかった1990年、ジャスコ株式会社代表取締役会長（当時）岡田卓也の提唱により、「イオングループ1%（ワンパーセント）クラブ」が設立されました。

ジャスコ誕生20周年を機に、「絶えず革新し続ける企業集団」として、「『平和』を追求し、『人間』を尊重し、『地域』に貢献する」という新生イオングループの基本理念の具現化を図り、社会的責任を果たすことがその趣旨でした。

社会貢献活動の原点は、イオンの前身のひとつである岡田屋の時代に遡ります。1958年、「風樹会」という交通遺児育英会を組織し、5人の高校生へ奨学金として給付したのが始まりです。この活動は後に提携した企業にも受け継がれ、できることから始めるという企業風土を醸成するきっかけとなりました。

各企業の業績にかかわらず継続的に社会貢献活動を行うため、グループ主要企業各社が税引き前利益の1%をイオンワンパーセントクラブへ拠出し、それをもとにグループを挙げて環境・社会貢献活動に取り組んでいます。



設立総会（1990年8月1日）



イオン チアーズクラブ

小中学生



種から育てたとうもろこしを収穫

実際に見て、触れて、考える。

イオン チアーズクラブは、小学生を中心に、環境や社会貢献活動に興味・関心を持ち、考える力を育む場として、全国のイオングループの店舗等を拠点に、「環境・社会」に関する体験学習を行っています。2023年度は420クラブが活動を行い、動植物の調査など、さまざまな体験活動を行いました。また、とうもろこしや、さつまいもなどを種や苗から栽培し、収穫するまでの一連の過程を体験できる、「チアーズ農園」を2023年4月に開園しました。

クラブ・メンバー数 **420クラブ4,467人**

累計メンバー数 **106,345人**

※2023年度末時点



チアーズ農園開園式(茨城県牛久市)



ウミガメの観察(チアーズクラブ 浜松西)



子ども薬剤師体験(チアーズクラブ ウエルシアしずおか)



苗から育てたお米の販売(チアーズクラブ カスミつくば)

壁新聞審査会

情報を整理し、伝達する力を磨くことを目的に、年度末に1年間の活動結果を模造紙にまとめて発表する、「壁新聞審査会」を開催しています。さまざまな工夫を凝らした発表により、日ごろの取り組みの成果を発揮します。2023年度は外部審査員を招き、全国12エリアで最終審査会を行いました。



北海道地区1位のクラブメンバーによる発表

イオン チアーズクラブ活動例

もしものときの防災教育

イオンディライト株式会社のご協力のもと、日常生活の中で地震や火事が発生した際の対応などを学ぶことを目的に実施しました。ショッピングモールの館内図を使用して避難経路を確認するプログラムのほか、カードゲームを使った学習や、水消火器を使った消火活動、起震車や煙ハウスの体験を通して、防災に関する知識を深めました。



わくわくキャッシュレス体験

イオンフィナンシャルサービス株式会社のご協力のもと、チアーズクラブメンバーを含む子どもたちにキャッシュレス決済の利便性について肌で学んでいただくことを目的に実施しました。お金の歴史クイズに挑戦したり、現金払いとキャッシュレス決済のどちらが速いか比べたり、普段持つことのない量の小銭や紙幣を持ち上げて貨幣の重さを体感することで、お金の価値や金融への理解を促しました。



コンサートホール探検ツアー

公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会のご協力のもと、パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌のオーケストラと交流しました。ミニインターンシップでは、コンサートホール入口でのパンフレットの配布や客席への誘導、場内アナウンスを体験しました。コンサートホール探検ツアーでは、バックヤード見学のほか、オーケストラメンバーと対面し、間近で楽器の演奏を聴かせていただきました。



各クラブの活動はホームページでも紹介しています。



イオン チアーズクラブ参加者の声

参加メンバー



チアーズクラブの活動は、身近な環境問題や社会課題について見学に行ったり、学んだりして、新しい発見があるので、すごく勉強になっています。これから何をしていくことが大切か、今、私ができる事は何か？を考えられるようになったことが、一番嬉しいです。

「もしものときの防災教育プログラム」参加メンバー

今日は普段、体験できない起震車や煙の家に入れて楽しかったです。本当に地震が起きたら、どのように動いたら良いか分からずパニックになってしまうと思うので、どのようなことが起きるのか感じておくのが大切だと学びました。近いうちに大きな地震が起きるかもしれないので、備えておこうと思いました。

保護者



チアーズクラブの活動に参加することで、自然と触れ合い、自分たちで考えて学ぶことを教えていただきました。活動中の子どもが、一生懸命に取り組んでいる姿を見て、成長したと思う場面が多々あります。他校のメンバーとの交流、年上の子が年下の子の面倒をみるなど助け合う大切さも学べて、子どもたちも私もチアーズクラブに入会してよかったと思います。

イオン チアーズクラブ カスミつくば「壁新聞作り」参加メンバー保護者

お米の販売体験の活動を思い出しながら、「あの時緊張したんだよね」「こうしたら買ってくれたんだよ」とか、生き生きとした様子で話してくれました。工場見学の内容は活動から日が経っていたので、なかなか思い出す事に苦労していましたが、資料を見返して「そういえばここにびっくりしたんだ」という当時の気持ちを話してくれました。言葉選びに迷っていましたが、普段なかなか文章にまとめる機会が少ないので、壁新聞作りはとても良い経験になりました。

新規メンバー登録のご案内

入会金・年会費無料！

土日祝など学校がお休みの日に、所属するクラブを拠点に、地域の協力団体とともに、山・畑などで環境問題や社会貢献をテーマに体験学習を行います。入会をご希望の方は、新規登録フォームから申請をお願いします。



中学生作文コンクール

中学生

考えをまとめ、言葉で伝える。

中学生作文コンクールは、中学生が、環境に関する社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的に、2003年より実施しています。2023年度は、「地球環境のために今できること」というテーマで、7,787件の作文が寄せられました。11月には金賞に選ばれた10名の中学生の皆さんを、東京での表彰式と翌日実施した環境エコツアーに招待しました。環境エコツアーでは、「地球環境のために周りに伝えていきたいこと」をディスカッションしたり、完全人工光型植物工場があるレストランで食事をするなど、環境保全への意識を高めました。

2023年度応募件数 **7,787**件

累計応募件数 **25,123**件

朝日中高生新聞で紹介されました！

2023年度に金賞を受賞した10作品の全文が「朝日中高生新聞」紙面に掲載されました。また、審査員からのメッセージや、環境エコツアーのレポートも掲載しています。中学生が地球環境のためにできること考え、想いを込めて書いた作文をぜひご覧ください。



表彰式にて審査員と受賞者による記念撮影



表彰式後に1泊2日の環境エコツアーに参加



環境エコツアーで環境のためにできることをディスカッション



環境エコツアーで完全人工光型植物栽培の野菜を観察

金賞受賞者による作文朗読

イオン エコワングランプリ 高校生



イオンワンパーセントクラブ理事長から賞状授与

伝えたい、私が取り組むエコ活動。

イオン エコワングランプリは、地球の未来を想う高校生が日ごろ取り組んでいる環境保全や社会貢献のための活動を発表し合うコンテストです。他校の発表を聞くことで、新たな行動のきっかけをつかみ、表現力や発信力を向上させることを目的に、2012年より開催しています。2023年度の第12回イオンエコワングランプリでは、2次審査を通過した14校の学生が東京で行われた最終審査会に出場しました。各校の発表者は、他校の生徒や審査員を前に日ごろの取り組みの成果を写真や動画を使って発表し、審査員からの質問に堂々と答えるなど自分たちの活動を大いにアピールしました。

2023年度応募件数 **121校 134件**

累計応募件数 **1,560件**

受賞校の活動レポートはホームページからご覧いただけます！

内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・環境大臣賞などを受賞した6校の活動レポートを専用サイトに掲載しています。高校生ならではの柔軟な発想から取り組む環境保全活動や社会貢献活動の詳細をご紹介します。活動を始めるきっかけや活動を続ける理由、今後めざしていること等を熱意をもって語る高校生の様子をぜひご覧ください。



内閣総理大臣賞受賞校の活動



審査員からの質問に回答



表彰式にて審査員とともに記念撮影



懇親会で互いの活動について意見交換

学校建設支援



校舎前で記念撮影する子どもたち

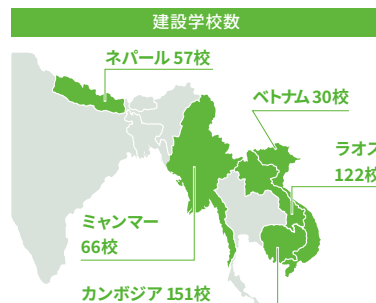
子どもたちに、学びの場を。

学校建設支援は、「平和な社会の実現には基礎教育の充実が不可欠」という想いのもと、教育施設の整備が遅れているアジア5カ国において、2000年より行っています。

全国から寄せられた募金と当財団からの拠出金を活用し、カンボジア、ネパール、ベトナム、ミャンマー、ラオスにおいてこれまでに426校の学校が完成しました。校舎の建設や給水施設の整備、学用品のほか、教員の養成など、ソフト面での支援も行っています。



新しく建設された校舎で勉強する子どもたち



学校で学べるようになった子ども **37万人**
累計学校建設数 **426校**

イオンユニセフセーフウォーターキャンペーン



家に設置された水道で手を洗う子どもたち

©UNICEF Cambodia/2023/Antoine Raab

子どもたちに、安全な水を。

イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーンは、カンボジア等の子どもたちに安全な水を供給するため、全国から寄せられた募金と当財団からの拠出金を、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて寄付しています。

給水施設の設置等により、遠方への水汲みに時間をとられ、学校の授業に参加できない子どもたちや、健康を害する恐れのある物質を含む地下水を生活用水として使う子どもたちを、教育・健康の両面でサポートしています。

2023年度寄付金額 **5,193万円**
累計寄付金額 **5億5,696万円**

寄付金額			
2010年	4,015万円	2018年	2,841万円
2012年	5,748万円	2019年	3,255万円
2013年	5,574万円	2020年	3,366万円
2014年	6,977万円	2021年	3,961万円
2015年	4,033万円	2022年	5,505万円
2016年	2,553万円	2023年	5,193万円
2017年	2,666万円		

安全な水を供給した人数	
累計	626,263人
カンボジア	462,300人
ミャンマー	78,963人
ラオス	85,000人

ティーンエイジ アンバサダー 高校生



ベトナムの伝統的なお菓子を楽しむ高校生

アジアの国々をつなぐ、友好の輪。

ティーンエイジ アンバサダーは、日本と海外の高校生が、互いの国を訪問し、国際的な相互理解と親交を深める交流プログラムです。文化や伝統、生活習慣の異なる同世代の若者たちが小さな大使（アンバサダー）となり、「表敬訪問活動」「交流活動」「歴史・文化活動」の3つの活動を通じて交流します。1990年より実施しており、これまでに日本を含めた18カ国2,521人が参加しています。

2023年度は日本とベトナムの外交関係樹立50周年を迎えることを記念し、ベトナムの5校から50人、日本の5校から50人、計10校100人の高校生がプログラムに参加しました。2024年度は、中国を交流国として実施します。

2023年度参加人数 **100人**

累計参加人数 **2,521人**



2023年度日本プログラムにて岸田首相を表敬訪問

これまでの交流国

18カ国 日本・イタリア・インドネシア・英国・オーストラリア・韓国・カンボジア・タイ・ドイツ・中国・フィリピン・ブラジル・ブルガリア・ベトナム・ペルー・マレーシア・ミャンマー・ラオス

※五十音順

互いの国を訪問し、各国で3つの活動を行います。

1 表敬訪問活動

母国を代表する小さな大使として、各国の政府や大使館などへの表敬訪問を行います。



ベトナム首相府を表敬訪問

2 交流活動

学校での授業体験やホームステイなど、互いの国で相手のくらしに触れることで友情を育みます。



ベトナムのホームステイ先で食卓を囲む

3 歴史・文化活動

伝統文化体験やその国ならではの史跡・施設の見学などを通じ、互いの国の歴史と文化を学びます。



民族衣装で散策し文化に触れる





アジアユースリーダーズ

高校生



成果発表会にて英語でプレゼンテーション

国境を越え、多様な価値観を学ぶ。

アジアユースリーダーズは、アジア各国の高校生が、社会問題をテーマに視察や専門家によるレクチャーに基づき、英語を共通言語として議論を重ね、解決策を提案するプログラムです。日本、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、マレーシア、ラオスの8カ国の高校生たちに、自分とは違う考え方や意見に対する理解を深め、視野を広げる場を提供し、次の世代を担うリーダーの育成を目的とします。

2023年度は、「食品メーカーが取り組むべきCO₂削減」をテーマに東京で開催しました。プログラムの前半は、「カーボンニュートラル」や「食品メーカーの環境への取り組み」について講義を受けるとともに、他者の意見を尊重しつつ、チームで結論を導き出せるようグループディスカッションを行いました。プログラムの後半では、成果発表会に向けてグループごとにプレゼンテーションの準備を行いました。講義や視察で学んだことをもとに、自分たちでVTRを作ったり、コントを取り入れて発表したり、発想力豊かで、活気ある発表会となりました。

2023年度参加人数 **8カ国 80人**

累計参加人数 **9カ国 1,216人**

これまでのテーマ

- 第1回 生物多様性
- 第2回 持続可能な開発
- 第3回 水と経済
- 第4回 ゴミ問題
- 第5回 大気汚染
- 第6回 ゴミ問題
- 第7回 水質問題
- 第8回 食育
- 第9回 食生活
- 第10回 食と健康
- 第11回 コロナ禍に伴う学校教育上の課題と改善点・打開策
- 第12回 食品ロス
- 第13回 食べ物から考えよう、環境のこと
- 第14回 食品メーカーが取り組むべきCO₂削減

これまでの参加国

9カ国 日本・インドネシア・カンボジア・タイ・中国・ベトナム・マレーシア・ミャンマー・ラオス

※五十音順



成果発表会で一位を獲得したチーム



審査員とともに記念撮影



イオン スカラシップ

大学生



タイの認定証授与式にて来賓と奨学生による記念撮影



インドネシアの認定証授与式にて奨学生による記念撮影

日本と母国の架け橋となる。

イオン スカラシップは、アジアの大学生を対象に、将来日本と母国の架け橋となり活躍してほしいとの願いのもと実施しています。

日本の大学に留学している奨学生には、授業料と生活費の一部を給付しているほか、奨学生同士の交流会や宿泊研修セミナー、ボランティア活動などの機会を提供しています。2023年度は、日本の大学で学ぶ57名の留学生に奨学金を給付し、サステナビリティに関するセミナーや植樹ボランティアの場を提供しました。

また、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、ミャンマーの大学で学ぶ現地の奨学生には、毎年各国で認定証授与式を開催し、大学を超えた奨学生同志の交流の場を提供しています。2023年度は、11月～3月にかけて授与式を開催し、444名の学生に奨学金を給付しました。

2023年度給付人数 **501人**

累計給付人数 **8,821人**

※日本・海外合計

これまでの給付実績

日本	1,127人
インドネシア	198人
カンボジア	221人
タイ	400人
中国	4,849人
ベトナム	1,339人
ミャンマー	687人

※五十音順

※大学が所在する国別の給付実績となり、日本においては留学生を対象としています。



インドネシアの認定証授与式にて学生によるスピーチ



奨学生による植樹ボランティア(宮城県石巻市)



日本の大学に留学している奨学生と来賓による記念撮影

ふるさと未来支援



さんさ踊り(岩手県)にてイオンワンパーセントクラブの浴衣で踊る

地域の暮らしと伝統を、未来へつなぐ。

ふるさとに受け継がれ、次の世代につなげるべき伝統文化、工芸技術の保存・継承と普及啓発に取り組む団体を支援し、その活動・行事が継続されることを目指しています。

支援対象団体

無形文化財、無形民俗文化財の保存・振興のための活動を継続している団体

2023年度支援件数 **72件** 累計支援件数 **848件**



伝統工芸 九谷焼



伝統工芸 輪島塗

イオン すくすくラボ



講師から子どもとのふれあい方を学ぶ

地域の子育てを、サポートする。

イオン すくすくラボは、地域社会の持続的な発展を目指し、0歳から3歳の乳幼児や未就学児とご家族を対象に、育児に関する深い知識を持つ講師によるセミナーやお悩み相談会等を行い、地域の子育て世代をサポートする活動です。

累計開催数 **56回** 累計参加人数 **10,192人**

講師によるセミナーの動画を公開しています。



講師による子育てセミナー



親子で手遊びを楽しむ



緊急災害復興支援

被災地の復興と、さらなる発展を願って。

緊急災害復興支援は、大規模災害により被災した方々が、日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう、復旧・復興を支援しています。国内外で発生した災害の被災地において、復旧・復興活動にお役立ていただくため、災害の発生に際し、いち早く支援金や支援物資をお届けするとともに、被災地の復興に向けた支援活動を続けています。

2023年度支援金額 **2億3,500万円**

累計支援金額 **約33億円**

「令和6年能登半島地震」に対する支援金の寄付・被災者支援

石川県に2024年2月26日、富山県に2月27日、新潟県に3月6日、計2億円の支援金を寄付しました。支援金は各自治体を通じ、被災された皆さまの支援にお役立ていただきました。また、石川県輪島市内4カ所の避難所で、復興を支援するため、プロの音楽家によるミニピアノコンサートを開催しました。

支援金合計額 2億円

石川県への贈呈	1億6,000万円
富山県への贈呈	2,000万円
新潟県への贈呈	2,000万円



石川県からいただいた感謝状

「トルコ・シリア大地震」に対する支援金・物資の寄付

2023年2月6日にトルコ・シリア国境付近を中心に発生した大地震で被災された方々が、1日でも早く健康で安心して生活できるよう、計9,900万円の支援を行いました。

支援金合計額 9,900万円

2023年2月支援金	1,000万円
2023年3月支援物資 (毛布6,000枚・寝袋2,000枚)	5,400万円
2023年5月支援金	3,500万円

※2023年2月・3月の支援は、2022年事業年度の活動です。



輸送のためトラックに救援物資を積む



輪島市内避難所での兄弟ピアノデュオLes Frères(レ・フレール)によるピアノコンサート

首里城復興支援



首里城公園の守礼門にて記念撮影するイオン チアーズクラブメンバー

首里城の復興は、みんなの願い。

首里城復興支援は、2019年10月末に、世界遺産である首里城が火災により甚大な被害を受けたことに対して、5年間で5億円の寄付を行うことを表明し、支援を続けています。4回目の寄付となる2023年は、11月3日（金）に首里城公園で沖縄県に支援金1億円を贈呈しました。2022年11月より正殿の復元工事が進められ、当財団からの支援金をお役立ていただいています。

首里城の復興を応援するため、イオン チアーズクラブ首里城復興支援ポスターコンクールを開催しています。2023年度は、優秀賞等を受賞した全国の子どもたちを沖縄に招待し、伝統文化や首里城について学ぶ機会を提供しました。

2023年度支援金額 **1億円**

累計支援金額 **4億1,000万円**



右から沖縄県知事 玉城 デニー様
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 理事長 森 美樹



「首里城復興支援ポスターコンクール2023」の表彰式



表彰式で沖縄県への応援メッセージを唱和



首里城公園特別見学ツアーで歴史を学ぶ

イオン チアーズクラブ 首里城復興支援ポスターコンクール

子どもたちが「首里城」を描くことで復興を支援するとともに、歴史ある文化遺産について学ぶことを目的に実施し、寄付金贈呈式と同時に表彰式を行いました。表彰式会場には、全国から寄せられた465点の想像力豊かで色鮮やかな力作ポスターのうち、受賞作品を含む49点を展示しました。



受賞作品を含む計49点の展示

イオンワンパーセントクラブのあゆみ

1990年の設立以来、多くのみなさまのご協力のもと、
30年以上にわたり活動を続けてまいりました。
これからも笑顔あふれる未来を目指し、歩み続けます。



1990年「イオングループ1%クラブ」設立

1990	●「イオングループ1%クラブ」設立 ●「小さな大使」第1回開催(現:ティーンエイジアンバサダー)
1996	●環境庁(現:環境省)「こどもエコクラブ」活動支援開始
2000	●「学校建設支援事業」開始
2003	●「中学生作文コンクール」開始
2005	●「イオン こどもエコクラブ」から「イオン チアーズクラブ」に改称
2006	●「イオン スカラシップ」開始
2007	●「シハヌーク・イオン博物館」完成 ●「地域行事支援」開始(現:ふるさと未来支援)
2008	●「イオン すくすくラボ」開始 ●「小さな大使」を「ティーンエイジアンバサダー」に改称
2009	●「アジア大学生環境フォーラム」第1回開催(現:アジアユースリーダーズ)
2010	●「イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン」開始
2011	●「東北支援」開始(～2021年まで)
2012	●「イオン エコワングランプリ」開始
2015	●「公益財団法人」へ移行(公益財団法人イオンワンパーセントクラブ)
2016	●「福島キッズ森もりプロジェクト」開始(～2021年まで) ●「未来農業DAYs」開始(～2020年まで)
2019	●設立30周年記念事業を実施 ●「首里城復興支援」開始
2024	●公益財団法人近野教育振興会より奨学金事業を承継

- 事業共通
- 子どもたちの健全な育成事業
- 諸外国との友好親善事業
- 地域の発展への貢献事業
- 災害復興支援事業

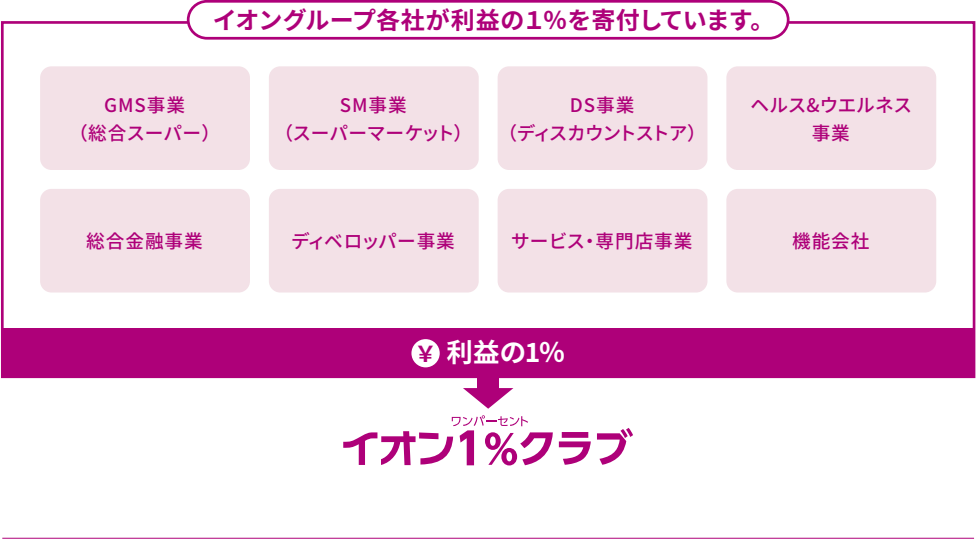
理事・監事・評議員 一覧

※氏名五十音順、2024年6月現在

理事長	現職
森 美樹	イオン株式会社 相談役
理事	現職
池野 隆光	ウエルシアホールディングス株式会社 代表取締役 兼 会長執行役員最高経営責任者
大野 恒太郎	公益財団法人国際民商事法センター 理事長
鹿取 克章	公益財団法人日韓文化交流基金 理事長
小島 明	公益社団法人日本経済研究センター 参与
ジョン・ギャスライト	株式会社ツリークライミングワールド 代表取締役
徳田 克己	筑波大学 名誉教授
西谷 義晴	元イオン株式会社 執行役
吉田 昭夫	イオン株式会社 取締役 兼 代表執行役社長
監事	現職
瀬戸 英雄	LM虎ノ門南法律事務所 弁護士
森 正勝	国際大学 特別顧問 名誉教授
若生 信弥	元イオン株式会社 執行役副社長
評議員	現職
岡田 元也	イオン株式会社 取締役 兼 代表執行役会長
柴田 英二	イオン株式会社 顧問
辻 善則	株式会社辻マネジメント研究所 所長
時岡 曙	元イオンマルシェ株式会社 代表取締役社長
藤崎 一郎	一般社団法人 日米協会 会長
村木 美貴	千葉大学大学院 工学研究院 教授
望月 晴文	東京中小企業投資育成株式会社 特別顧問
山下 昭典	イオン株式会社 顧問
横尾 博	元イオン株式会社 取締役会議長
渡辺 好明	新潟食料農業大学 名誉学長

2024年度 寄付・協賛企業一覧

ウエルシアホールディングス株式会社	イオンタウン株式会社
イオンフィナンシャルサービス株式会社	イオンペット株式会社
イオンモール株式会社	株式会社ビッグ・エー
イオン株式会社	エー・シー・エス債権管理回収株式会社
イオンディライト株式会社	株式会社光洋
マックスバリュ東海株式会社	イオンエンターテイメント株式会社
株式会社イオン銀行	イオン商品調達株式会社
イオン北海道株式会社	イオン琉球株式会社
まいばすけっと株式会社	イオン・リートマネジメント株式会社
イオンビッグ株式会社	イオンフードサプライ株式会社
イオン九州株式会社	イオンリカー株式会社
イオントップバリュ株式会社	リフォームスタジオ株式会社
イオン住宅ローンサービス株式会社	株式会社生活品質科学研究所
株式会社フジ	イオン保険サービス株式会社
イオンアイビス株式会社	ACSリース株式会社
株式会社イオンファンタジー	メガベトロ株式会社
ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社	イオンリテール株式会社
オリジン東秀株式会社	



寄付・協賛企業代表より

当社は、「お客さま、地域社会の『環境価値』を創造し続ける。」という経営理念のもと、日本、中国、アセアンを活動領域にファンリティマネジメント事業を展開し、アジアで社会課題を解決する環境価値創造企業を目指しています。当社が掲げる「環境価値創造」とは、人々が平和と豊かさを享受できる環境を創出していくということです。当社は、事業を通じて、この環境価値を創造し続け、社会の持続的発展に貢献していくことで、お客さま、地域社会から必要とされ続ける企業でありたいと考えています。

企業として社会課題解決に向けた推進力を高めるためには、事業と環境・社会を両輪とする企業経営を強化していくことが不可欠です。そのため、2021年8月には、「サステナビリティ基本方針」を策定し、条文のひとつとして、「企業市民として、より良い環境や社会を目指す社会貢献活動に取り組みます。」を掲げました。

このような考えのもと、当社はイオンワンパーセントクラブを通じて、様々な社会貢献活動に協力しています。2024年3月には、イオンモール幕張新都心にプログラム「もしものときの防災教育」をイオンワンパーセントクラブと協働開催しました。「イオン チアーズクラブ」に所属する地域の子どもたちに防災に関する知識を深めていただくことを目的に、日々、施設の「安全・安心」を担う専門家として当社従業員が講師役となり、お子さまたちに「もしものときの」様々な防災対応を体験していただきました。

当社では、お客さま、地域社会から必要とされ続ける企業となることを目指し、これからイオンワンパーセントクラブや、全てのステークホルダーの皆さまとともに、「笑顔あふれる未来」の実現に向けた社会貢献活動に取り組んでまいります。

イオンディライト株式会社 代表取締役社長
濱田 和成

